

障害学会第15回大会・2018

2018 Japan Society for Disability Studies 浜松 11月17-18日

台湾の障害学 - 問題と課題

張恒豪 Chang Heng-hao
国立台北大学社会学教授
国立台北大学台湾開発研究所所長
台湾障害学会会長

概要

- 定義
- 展開
- 知見
- 課題



障害学?

- 「障害の研究」から「障害学」へ
- 障害学/非障害学
 - (シミ・リントン 1998)
 - リベラルアーツ対医療モデル
 - 女性/ジェンダー研究、人種/民族研究、クイア研究と同様に、マイノリティグループ(障害者)の社会的抑圧を認識

定義

- 障害学プログラム 2002ガイドライン
 - 障害についての医療、個人、欠点に注目するモデルの支配に挑戦する(それらの貢献を無視しない)
 - 障害を人間の連続した経験の一部と考える
 - 参加拡大への環境的および社会的障壁を検証する
 - 学際的アプローチ

(Cushing and Smith 2009)

障害学の組織化

- イギリス：
 - 1974年 隔離に反対する身体障害者連盟(UPIAS)
 - 雑誌：
 - 「障害、ハンディキャップと社会」(Disability, Handicap and Society)1986年、オリバーとバートン
 - 「障害と社会」(Disability and Society)と改称 1993年
 - リーズにおける障害研究ユニット、1992年
 - 障害学センター(CDS)、1999年

- 米国
- 慢性疾患と障害セクション、ウェスタン社会科学学会 (WSSA)
 - 雑誌
 - 季刊障害と慢性疾患(Disability and Chronic Illness Quarterly) 1980年
 - 季刊障害学(Disability Studies Quarterly)と改称 1985年 ;
 - SDS
 - 社会学会の慢性疾患、機能障害、能力障害についての研究;1982年
 - 障害学会(Society for Disability Studies)、1986年

- 北欧諸国
 - 北欧障害研究ネットワーク(Nordic Network on Disability Research) 1997年
 - スカンジナビア障害研究ジャーナル(Scandinavian Journal of Disability Research)、SJDR

障害学の発展

- アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド
 - 独立の 障害学部門
 - 応用系学問分野とのハイブリダイゼーション
 - リベラルアーツ内での統合

表 (全地域における1999 -2008の DS の 発展)

	正規学位	増加率	部分学位	増加率	学部	% 増加率	大学院	増加率
年								
1999	7		5		2		10	
2003	21	200%	16	220%	14	600%	23	130%
2008	36	71%	30	88%	29	107%	37	61%

台湾の障害学

- 障害者権利運動
- 障害学

小史： 台湾における障害者権利運動 1980-2006

- 1981-1987
 - 運動の出現: キリスト教会、劉俠(Liu Hisa)と親の会
- 1988-1992
 - 障害者権利社会運動組織の連携と組織化
 - 身心障害者連盟 (身心障礙聯盟(殘障聯盟)) 1990年設立
 - 台湾知的障害家族会 (中華民國智障者家長總會) 1992年設立
- 1993-2006
 - 公的政策への関与
- 2007-2014
 - 「新」障害者運動

台湾の障害者権利運動

- 台湾の障害者「福祉」運動
 - 社会福祉への注力
 - ほとんどが慈善民間団体、障害者の代弁者またはサービス提供者
 - ほとんどが専門家によってリードされ障害者の参加がない
- 2000年中ごろから新世代の障害者
 - 障害者権利行動連盟(ネットワークベースの社会運動)

主要な立法

- 障害者権利保護法 (身心障礙者權益保障法，身權法)
 - 1980 障害福祉法 (殘障福利法)
 - 1997 障害者権利保護法(身心障礙者權益保護法)
 - 「社会モデル」の組み込み
 - 2007年に改称
 - 2014年 障害者権利条約



台湾への社会モデルの導入

著者(年)	専門分野	障害のスティグマ	資本主義批判	エイブリズム批判
林宏熾(2002)	特殊教育	○	×	×
董和銳(2003)	リハビリテーション	×	×	×
周月清等人(2004)	社会事業	×	△	△
王國羽(2005)	社会福祉	○	○	○
張恒豪(2007)	社会学	○	○	○
邱大昕(2007)	社会学	○	○	○

○:言及あり △一部言及あり ×言及なし

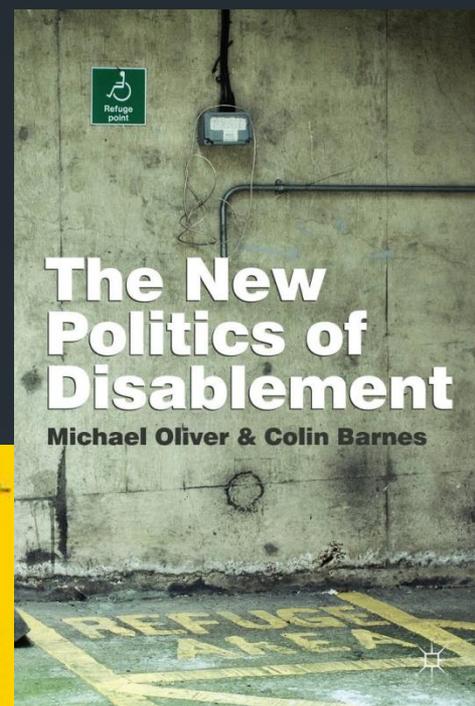
雑誌と書籍

- 障害研究ジャーナル(身心障礙研究季刊): 2003~
 - 主に公衆衛生を取り上げ、時に社会事業や社会学を取り上げる
- 書籍および編著：
 - 障害学:理論と政策の応用、台北、Chuliu 出版
 - 王國羽、林昭吟、張恒豪 編 2012 障礙研究：理論與政策應用
 - 障害研究とライフライティング 障害女性のジェンダー/セックス、身体/政治及び美学/詩学
 - 孫小玉 2014 《失能研究與生命書寫：失能女性之性/別、身體/政治、與詩/美學》,國立中山大學出版社,高雄
 - 障害を抱きしめて: 21世紀のための読本
 - 劉人鵬 (編) 2014 《抱殘守缺：21世紀殘障研究讀本》

障害研究	著者(年)	説明	専門分野
残障研究/ハンディ キャップ研究	呂心怡(2009) 劉人鵬(2014)	N/A	人類学、文学
障礙研究 disability studies	張恒豪(2007) 邱大昕(2007)	台湾におけるハン ディキャップ(残障) という言葉への批判	社会学
失能研究 disability studies	孫小玉(2011)	資本主義とエイブリ ズムの批判	文学

台湾障害学会

- 2018年に創設
 - 書籍プロジェクト 2010 (2012年出版)
 - 研究グループ/翻訳書を 2016年に
 - 学者、学生、草の根 障害者組織
 - 研究グループ 2及び3



知見

- 非西欧という背景の下での障害学についての理論的考察
- ポストコロニアルの障害学
 - ミーコシャとソルダティック (2011)
 - グローバルノースとグローバルサウス
 - 近代化と植民地主義
 - 戦争、貧困
 - 南における医療モデル
 - メイヤーズ (2014)
 - 障害者権利条約とトップダウンアプローチ及びニカラグアのDPO(障害者組織)
 - 法的言語と現地障害者組織
 - 医療モデル
 - インクルーシブ教育ではなく、教育一般の欠如、
 - メガホン又は反響室としての世界的な市民社会か?: 国際障害者権利運動における声

台湾における盲人のための「特殊」教育

- 「欧米」の障害者教育
 - 隔離、分離、統合およびインクルージョン
 - 産業化以前、産業化、産業化以後
- 台湾
 - 植民地の遺産、日本の植民地時代 (1895-1945)
 - 農業社会における盲学校
 - 第2次世界大戦後,
 - 産業化社会におけるインクルーシブ教育
 - 邱大昕 (2014) 点字、あんま及び統合：1870年代-1970年代台湾におけるハイブリッドな盲人教育の展開、教育史 50(1-2): 182-194.

慈善から権利へ？

- 名称の政治
- 「ハンディキャップを持つ者」(“残障”) から「障害者」(身心障礙者)へ
 - 「人権」でなくもっと慈善を
 - 慈善の覇権
 - 張恒豪と Jing-yi Wang. 2016. 「ハンディキャップを持つ者から障害者へ」: 台湾の新聞における障害のラベルと論文の内容分析、「台湾社会学ジャーナル」、31: 1-41. (中国語)

ICFの現地化（ローカライゼーション）

- 台湾に社会モデルを持ち込むかまたは医療化された障害を持ち込むか
 - 医療専門家によるさらなる評価、評価へのさらなる時間
 - 社会モデルに基づく予算がほぼない
 - ICFによる障害の医療化か

課題

- 組織化、それとも草の根の 障害者への接続か？
 - 組織化
 - 研究センター？学位プログラム？ または？
 - 学者と 障害者組織/民間組織の関係

- 障害学の現地化？
 - ポストコロニアル的批評から現地化された理論へ
 - 個人主義、家族及びコミュニティ
 - 障害学への東アジアの視点
 - 政策への含意
 - 脱施設化
 - 法的能力と後見制度

- 交差性(intersectionality)
 - ジェンダー、セクシャリティ、階級/労働、エスニシティ

- 学際性
 - 「伝統的」障害分野との対話
 - 様々なフィールドの間のコミュニケーション
 - 学問環境の変化
 - 応用研究、実証主義
 - 発表の要請
 - 学際的作業を勧めない